

資料編

アンケート調査の概要

1. 市民アンケート

1) 調査設計

- (1) 調査地域 宇都宮市全域
- (2) 調査対象 市内在住の満 20 歳以上の市民
- (3) 標本数 2,000 人及び環境モニター30 人
- (4) 抽出方法 住民基本台帳から無作為抽出。環境モニターは悉皆調査
- (5) 調査方法 郵送配布・郵送回収による郵送調査法
- (6) 調査期間 平成 14 年 9 月 25 日 (水) ～10 月 10 日 (木)

2) 回収結果

	A.標本数	B.無効標本数	C.最終標本数 (A-B)	D.回収数	E.有効回収数	F.有効回収率 (E/C*100)
一般市民	2,000	11	1,989	564	564	28.4%
モニター	30	0	30	23	23	76.7%
合計	2,030	11	2,019	587	587	29.1%

※無効標本数とは宛先不明で調査票不着となったもの

2. 学校アンケート

1) 調査設計

- (1) 調査地域 宇都宮市全域
- (2) 調査対象 宇都宮市内の小学校・中学校・高等学校
- (3) 標本数 小学校 59 校、中学校 21 校、高等学校 15 校
- (4) 抽出方法 悉皆調査
- (5) 調査方法 郵送配布・郵送回収による郵送調査法
- (6) 調査期間 平成 14 年 10 月 24 日 (木) ～11 月 8 日 (金)

2) 回収結果

	A.標本数	B.回収数	C.有効回収率 (B/A*100)
小学校	59	46	78.0%
中学校	21	20	95.2%
高等学校	15	12	80.0%
合計	95	78	82.1%

3. 事業者アンケート

1) 調査設計

- (1) 調査地域 宇都宮市全域
- (2) 調査対象 宇都宮市内の従業員規模 10 人以上の事業者
- (3) 標本数 200 社
- (4) 抽出方法 事業所台帳より無作為抽出
- (5) 調査方法 郵送配布・郵送回収による郵送調査法
- (6) 調査期間 平成 14 年 10 月 24 日 (木) ～11 月 8 日 (金)

2) 回収結果

	A.標本数	B.無効標本数	C.最終標本数 (A-B)	D.有効回収 数	E.有効回収率 (D/C*100)
事業者	200	3	197	100	50.8%

※無効標本数とは宛先不明で調査票不着となったもの

アンケート調査の結果

1. 市民アンケート

回答者の属性

地区別	回答数	比率(%)
北西部	61	10.4
中央	274	46.7
東部	72	12.3
南部	180	30.7
合計	587	100.0

男女別	回答数	比率(%)
女性	365	62.2
男性	220	37.5
不明	2	0.3
合計	587	100.0

年齢別	回答数	比率(%)
20歳代	69	11.8
30歳代	109	18.6
40歳代	101	17.2
50歳代	141	24.0
60歳代以上	165	28.1
不明	2	0.3
合計	587	100.0

問1 環境について、あなたが関心があるのはどんなことですか（5つまで選択）

選択肢	回答数	比率(%)
空気の汚れ	302	51.4
水の汚れ	316	53.8
土の汚染	121	20.6
騒音や悪臭	148	25.2
化学物質	113	19.3
ごみ・リサイクル	326	55.5
産業廃棄物	230	39.2
資源・エネルギー	110	18.7
水源や水資源	101	17.2
地球温暖化など	323	55.0
途上国など他国の環境問題	30	5.1
身近な自然や緑	179	30.5
宇都宮の歴史や文化	41	7.0
街並みや景観	70	11.9
食や農林業問題	164	27.9
環境に配慮した消費行動	82	14.0
行政の環境施策	76	12.9
工場や企業の環境意識・環境配慮行動	83	14.1
特にない	2	0.3
その他	6	1.0
未記入	1	0.2
合計	2,824	481.1

問2 環境問題に関心をもったきっかけは何ですか（3つまで選択）

選択肢	回答数	比率(%)
新聞・テレビなどを通じて	522	88.9
広報うつのみやを見て	138	23.5
本や雑誌を読んで	260	44.3
講演会・シンポジウムを通じて	46	7.8
学校で勉強して	21	3.6
施設見学や現場を見て	78	13.3
家族や友人を通じて	121	20.6
身近に環境問題が起きたことを通じて	206	35.1
環境団体や消費者団体を通じて	41	7.0
なんとなく	49	8.3
その他	42	7.2
未記入	3	0.5
合計	1,527	260.1

問3 環境問題の解決を図るためには、どのような取組が必要だと思いますか（3つまで選択）

選択肢	回答数	比率(%)
規制・監視の強化	260	44.3
環境教育・環境学習の充実	378	64.4
環境を重視した企業・経済活動	204	34.8
国が社会的制度を整備	98	16.7
環境に負担をかけない生活	302	51.4
企業などが環境保全技術を開発	215	36.6
行政がボランティア活動などを支援	154	26.2
開発途上国などへの国際協力の推進	22	3.7
わからない	4	0.7
その他	9	1.5
未記入	5	0.9
合計	1,651	281.3

問4 環境学習という言葉を知ったことがありますか

選択肢	回答数	比率(%)
聞いたことがある	277	47.2
聞いたことがない	268	45.7
未記入	42	7.2
合計	587	100.0

問5 環境学習についてどのような経験がありますか（複数回答）

選択肢	回答数	比率(%)
学校の授業で学習した	81	13.8
家庭や職場で話し合った	226	38.5
講演会や学習会などに参加した	96	16.4
職場での研修などに参加した	70	11.9
リサイクルなど地域の活動に参加した	150	25.6
環境団体やグループなどで活動した	43	7.3
書籍や雑誌などで勉強した	115	19.6
インターネットで情報を入手した	35	6.0
特にしていない	162	27.6
その他	8	1.4
未記入	39	6.6
合計	1,025	174.6

問6-1 市で行っている環境学習に関する事業のうち、知っているものを教えてください（複数回答）

選択肢	回答数	比率(%)
こどもエコクラブの活動	79	13.5
自然観察会の開催	160	27.3
緑化講演会の開催	142	24.2
森林ボランティアの育成	130	22.1
緑化ボランティア養成講座の開催	61	10.4
親子森林体験教室の開催	101	17.2
生ごみリサイクルの普及	315	53.7
環境家計簿の普及	44	7.5
グリーントラスト運動の推進	101	17.2
文化財めぐりと遺跡発掘説明会の開催	184	31.3
宇都宮市民大学の開催	233	39.7
環境未来館の設置	156	26.6
市民活動サポートセンターの設置	40	6.8
冒険活動センターの設置	212	36.1
合計	1,958	333.6

問6-2 市で行っている環境学習に関する事業のうち、参加したことがあるものを教えてください（複数回答）

選択肢	回答数	比率(%)
こどもエコクラブの活動	7	1.2
自然観察会の開催	17	2.9
緑化講演会の開催	18	3.1
森林ボランティアの育成	2	0.3
緑化ボランティア養成講座の開催	4	0.7
親子森林体験教室の開催	2	0.3
生ごみリサイクルの普及	42	7.2
環境家計簿の普及	8	1.4
グリーントラスト運動の推進	9	1.5
文化財めぐりと遺跡発掘説明会の開催	27	4.6
宇都宮市民大学の開催	16	2.7
環境未来館の設置	46	7.8
市民活動サポートセンターの設置	8	1.4
冒険活動センターの設置	59	10.1
合計	265	45.1

問7 環境学習を市民一人ひとりに広め、より効果的に進めていくために、市の施策としてどんなことを望みますか（3つまで選択）

選択肢	回答数	比率(%)
相談窓口の設置	159	27.1
環境学習センターの充実	132	22.5
環境学習の情報提供	191	32.5
市の環境情報を手軽に知る仕組みづくり	94	16.0
学校教員に対する研修	187	31.9
人材育成と地域への派遣	99	16.9
観察会や講演会の開催	173	29.5
教材・資料の作成・配布	148	25.2
道具・資材の貸し出し	52	8.9
ネットワークづくり	77	13.1
市民団体などへの支援	144	24.5
特になし	11	1.9
その他	14	2.4
未記入	40	6.8
合計	1,521	259.1

問8 以下の取組は、それぞれどの程度重要だと思いますか

問8(1) 学校教育で環境学習の授業を多く行う

選択肢	回答数	比率(%)
非常に重要	327	55.7
やや重要	185	31.5
どちらともいえない	38	6.5
重要でない	3	0.5
未記入	34	5.8
合計	587	100.0

問8(2) 家庭で環境に配慮した態度や習慣を身につける

選択肢	回答数	比率(%)
非常に重要	383	65.2
やや重要	143	24.4
どちらともいえない	27	4.6
重要でない	0	0.0
未記入	34	5.8
合計	587	100.0

問8(3) 地域で自主的な環境学習をさまざまな人々が行う

選択肢	回答数	比率(%)
非常に重要	136	23.2
やや重要	262	44.6
どちらともいえない	131	22.3
重要でない	5	0.9
未記入	53	9.0
合計	587	100.0

問8(4) 企業が従業員の環境学習に積極的に取り組む

選択肢	回答数	比率(%)
非常に重要	305	52.0
やや重要	166	28.3
どちらともいえない	66	11.2
重要でない	5	0.9
未記入	45	7.7
合計	587	100.0

問8(5) 行政が市民などの自主的な環境学習を支援する

選択肢	回答数	比率(%)
非常に重要	236	40.2
やや重要	242	41.2
どちらともいえない	60	10.2
重要でない	5	0.9
未記入	44	7.5
合計	587	100.0

問8(6) 行政が環境学習や普及啓発をもっと充実させる

選択肢	回答数	比率(%)
非常に重要	244	41.6
やや重要	238	40.5
どちらともいえない	56	9.5
重要でない	8	1.4
未記入	41	7.0
合計	587	100.0

2. 学校アンケート

回答者の属性

学校区分	回答数	比率(%)
小学校	46	59.0
中学校	20	25.6
高等学校	12	15.4
合計	78	100.0

問1 教育目標などに環境教育をどのように示していますか

選択肢	回答数	比率(%)
目標に示し、具体化の全体計画を作成	37	47.4
目標に示すが、全体計画は未作成	19	24.4
示していないが今後は検討	11	14.1
示していない	9	11.5
その他	0	0.0
不明	2	2.6
合計	78	100.0

問2 校務分掌に環境教育担当を位置付けていますか

選択肢	回答数	比率(%)
位置づけている	65	83.3
現在は位置づけていないが今後はしたい	4	5.1
位置づけていない	8	10.3
その他	1	1.3
不明	0	0.0
合計	78	100.0

問3 環境教育をどう進めていますか（3つまで選択）

選択肢	回答数	比率(%)
年間計画で全校的な取組を行っている	33	42.3
学年指定で計画的に行っている	13	16.7
教科指定で計画的に行っている	12	15.4
各教科に関連させ意識的に行っている	40	51.3
教師が個人・グループで進めている	10	12.8
全校的な研究会・学習会がある	1	1.3
有志による研究会・学習会がある	0	0.0
特に何もしていない	3	3.8
その他	4	5.1
不明	0	0.0
合計	116	148.7

問4 思い浮かぶ環境教育の指導内容は何ですか (5つまで選択)

選択肢	回答数	比率(%)
自然の仕組みや成り立ちの学習	8	10.3
社会のしくみや成り立ちの学習	1	1.3
地域の動植物や地形などの学習	5	6.4
地域の文化・歴史や生活習慣などの学習	1	1.3
地球的規模の環境問題の学習	43	55.1
地域や国内の環境問題の学習	23	29.5
人間と環境とのかかわりの学習	45	57.7
資源・エネルギーに関する学習	27	34.6
環境に配慮した生活の仕方の学習	48	61.5
自然とのふれあい活動	24	30.8
緑を増やす活動	8	10.3
動植物の飼育栽培活動	12	15.4
ごみの分別やリサイクル活動	58	74.4
地域の美化・清掃活動	33	42.3
地域の環境調査	18	23.1
標語や作文、ポスターの制作	4	5.1
環境に関する施設の見学	10	12.8
その他	0	0.0
不明	2	2.6
合計	370	474.4

問5 教科、総合的な学習の時間、特別活動別に、平成13年度以降に指導した内容のある内容をすべて選んでください

選択肢	教科		総合的な学習の時間		特別活動	
	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)	回答数	比率(%)
自然の仕組みや成り立ちの学習	51	65.4	8	10.3	2	2.6
社会のしくみや成り立ちの学習	44	56.4	8	10.3	3	3.8
地域の動植物や地形などの学習	42	53.8	23	29.5	4	5.1
地域の文化・歴史や生活習慣の学習	41	52.6	30	38.5	3	3.8
地球的規模の環境問題の学習	48	61.5	21	26.9	5	6.4
地域や国内の環境問題の学習	52	66.7	27	34.6	1	1.3
人間と環境とのかかわりの学習	50	64.1	22	28.2	6	7.7
資源・エネルギーに関する学習	55	70.5	15	19.2	1	1.3
環境に配慮した生活の仕方の学習	48	61.5	25	32.1	4	5.1
自然とのふれあい活動	32	41.0	21	26.9	29	37.2
緑を増やす活動	10	12.8	9	11.5	28	35.9
動植物の飼育栽培活動	23	29.5	16	20.5	42	53.8
ごみの分別やリサイクル活動	34	43.6	32	41.0	36	46.2
地域の美化・清掃活動	5	6.4	14	17.9	51	65.4
地域の環境調査	10	12.8	26	33.3	3	3.8
標語や作文、ポスターの制作	21	26.9	8	10.3	19	24.4
環境に関する施設の見学	29	37.2	16	20.5	9	11.5
合計	595	762.8	321	411.5	246	315.4

問6 平成13年度以降、教員に対し環境教育に関する校内研修を行ったことがありますか

選択肢	回答数	比率(%)
実施した(予定含む)	8	10.3
実施していない	69	88.5
不明	1	1.3
合計	78	100.0

問7 環境教育をより推進していく上での障害は何ですか（3つまで選択）

選択肢	回答数	比率(%)
国などの方針が明確でない	9	11.5
体系的な指導要領やカリキュラムがない	37	47.4
教材や学習プログラムが不十分である	33	42.3
割ける時間が不足している	45	57.7
予算が不十分である	20	25.6
地域の環境等の環境情報が不足している	19	24.4
教員の指導力が不十分である	18	23.1
ほかに優先する教育課題がある	20	25.6
特に障害はない	3	3.8
その他	2	2.6
不明	0	0.0
合計	206	264.1

問8 学校における環境教育を進めるために、市の施策として何を望みますか（3つまで選択）

選択肢	回答数	比率(%)
教員向け研修会の開催	24	30.8
協力者や講師の紹介・派遣	38	48.7
市の環境情報を手軽に知る仕組みづくり	29	37.2
副読本・パンフなど教材の提供	34	43.6
環境教育に関するモデル校の指定	7	9.0
実践事例やプログラム集の提供	27	34.6
地域と学校との融合を支援	30	38.5
学校での環境教育を市民に知ってもらう機会づくり	6	7.7
学校間のネットワークづくり	3	3.8
NPO、地域、企業とのネットワーク	16	20.5
特にない	1	1.3
その他	2	2.6
不明	0	0.0
合計	217	278.2

問9 環境学習センターの利用状況をお聞きます

選択肢	回答数	比率(%)
知っており、利用したことがある	31	39.7
知っているが、利用したことはない	40	51.3
知らなかった	7	9.0
不明	0	0.0
合計	78	100.0

問10 以下の取組は、それぞれどの程度重要だと思いますか

問10(1) 学校教育で環境学習の授業を多く行う

選択肢	回答数	比率(%)
非常に重要	28	35.9
やや重要	40	51.3
どちらともいえない	9	11.5
重要でない	0	0.0
未記入	1	1.3
合計	78	100.0

問10(2) 家庭で環境に配慮した態度や習慣を身につける

選択肢	回答数	比率(%)
非常に重要	63	80.8
やや重要	15	19.2
どちらともいえない	0	0.0
重要でない	0	0.0
未記入	0	0.0
合計	78	100.0

問10(3) 地域で自主的な環境学習をさまざまな人々が行う

選択肢	回答数	比率(%)
非常に重要	28	35.9
やや重要	40	51.3
どちらともいえない	10	12.8
重要でない	0	0.0
未記入	0	0.0
合計	78	100.0

問10(4) 企業が従業員の環境学習に積極的に取り組む

選択肢	回答数	比率(%)
非常に重要	42	53.8
やや重要	26	33.3
どちらともいえない	9	11.5
重要でない	0	0.0
未記入	1	1.3
合計	78	100.0

問10(5) 行政が市民などの自主的な環境学習を支援する

選択肢	回答数	比率(%)
非常に重要	50	64.1
やや重要	27	34.6
どちらともいえない	0	0.0
重要でない	0	0.0
未記入	1	1.3
合計	78	100.0

問10(6) 行政が環境学習や普及啓発をもっと充実させる

選択肢	回答数	比率(%)
非常に重要	40	51.3
やや重要	31	39.7
どちらともいえない	6	7.7
重要でない	0	0.0
未記入	1	1.3
合計	78	100.0

3. 事業者アンケート

回答者の属性

業種	回答数	比率(%)
農林水産業	1	1.0
鉱業	0	0.0
建設業	9	9.0
電気・ガス・熱供給・水道業	3	3.0
運輸・通信業	5	5.0
卸売・小売業、飲食店	31	31.0
金融・保険業	7	7.0
不動産業	0	0.0
サービス業	17	17.0
製造業	22	22.0
その他	3	3.0
不明	2	2.0
合計	100	100.0

従業員数	回答数	比率(%)
100人未満	56	56.0
100人～1,000人未満	35	35.0
1,000人以上	7	7.0
不明	2	2.0
合計	100	100.0

問1 事業所の環境への取組と事業活動のあり方をどう思いますか

選択肢	回答数	比率(%)
ビジネスチャンスである	5	5.0
社会貢献の一つである	49	49.0
法規制などをクリアするレベルでよい	1	1.0
企業業績を左右する重要な要素である	18	18.0
企業の最も重要な戦略の一つである	22	22.0
その他	2	2.0
不明	3	3.0
合計	100	100.0

問2 以下の環境配慮の事業活動は、どの程度重要だと考えますか

問2(1) 環境への悪影響や公害の防止・低減

選択肢	回答数	比率(%)
非常に重要	81	81.0
やや重要	15	15.0
どちらともいえない	1	1.0
重要でない	0	0.0
不明	3	3.0
合計	100	100.0

問2(2) 環境にやさしい商品の開発・販売

選択肢	回答数	比率(%)
非常に重要	50	50.0
やや重要	40	40.0
どちらともいえない	7	7.0
重要でない	2	2.0
不明	1	1.0
合計	100	100.0

問2(3) 廃棄物の減量化、リサイクル等

選択肢	回答数	比率(%)
非常に重要	74	74.0
やや重要	22	22.0
どちらともいえない	3	3.0
重要でない	0	0.0
不明	1	1.0
合計	100	100.0

問2(4) 資源やエネルギーの節約

選択肢	回答数	比率(%)
非常に重要	73	73.0
やや重要	24	24.0
どちらともいえない	1	1.0
重要でない	0	0.0
不明	2	2.0
合計	100	100.0

問2(5) 環境に関する情報公開

選択肢	回答数	比率(%)
非常に重要	44	44.0
やや重要	41	41.0
どちらともいえない	13	13.0
重要でない	0	0.0
不明	2	2.0
合計	100	100.0

問2(6) 地域の環境保全活動への参加等

選択肢	回答数	比率(%)
非常に重要	24	24.0
やや重要	50	50.0
どちらともいえない	25	25.0
重要でない	0	0.0
不明	1	1.0
合計	0	100.0

問2(7) グリーン購入

選択肢	回答数	比率(%)
非常に重要	22	22.0
やや重要	42	42.0
どちらともいえない	27	27.0
重要でない	4	4.0
不明	5	5.0
合計	100	100.0

問3 社会全体としてどのような取組が必要だと思いますか (3つまで選択)

選択肢	回答数	比率(%)
規制・監視の強化	36	36.0
環境教育・環境学習の充実	74	74.0
環境を重視した企業・経済活動	40	40.0
国が社会的制度を整備	35	35.0
環境に負担をかけない生活	41	41.0
企業などが環境保全技術を開発	40	40.0
行政がボランティア活動などを支援	25	25.0
開発途上国などへの国際協力の推進	3	3.0
わからない	0	0.0
その他	0	0.0
未記入	0	0.0
合計	294	294.0

問4 環境学習という言葉聞いたことがありますか

選択肢	回答数	比率(%)
聞いたことがある	50	50.0
聞いたことがない	47	47.0
不明	3	3.0
合計	100	100.0

問5 貴事業所が行っている環境学習をすべて挙げてください

選択肢	回答数	比率(%)
社内で講演会や研修会を開催	22	22.0
外部の研修会などに従業員を派遣	26	26.0
従業員用環境教育プログラムを保有	28	28.0
社内報などで環境意識を啓発	32	32.0
地域で環境学習や環境活動を実施	15	15.0
地域の環境活動に協力や支援	28	28.0
NPOなどの環境活動を支援	3	3.0
工場見学など学校の環境教育に協力	15	15.0
自社の環境活動情報を発信	18	18.0
環境マネジメントシステムを構築	28	28.0
特にしていない	35	35.0
その他	2	2.0
不明	4	4.0
合計	256	256.0

問6 従業員に対する環境学習を効果的に進めていくために、市の施策としてどんなことを望みますか（3つまで選択）

選択肢	回答数	比率(%)
事業所向けの研修会などを開催	35	35.0
他企業や内外の環境情報を提供	25	25.0
市の環境情報を手軽に知る仕組みづくり	39	39.0
社内研修用講師の紹介・派遣	13	13.0
事業所向けにパンフなど教材を提供	24	24.0
環境マネジメントシステム構築への支援	26	26.0
環境優良事業所の表彰制度の設立	19	19.0
事業所の活動をアピールする場づくり	18	18.0
ネットワークづくり	39	39.0
特になし	4	4.0
その他	1	1.0
不明	4	4.0
合計	247	247.0

問7 今後の従業員に対する環境学習に関して、どのようにお考えですか

選択肢	回答数	比率(%)
積極的に取り組みたい	39	39.0
取り組みたいが現状では難しい	42	42.0
取り組むつもりはない	2	2.0
わからない	13	13.0
その他	1	1.0
不明	3	3.0
合計	100	100.0

問8 問7で「積極的に」と回答した事業所におたずねします。具体的にはどのようなことを進めていきたいですか（3つまで選択）

選択肢	回答数	比率(%)
社内で講演会や研修会を開催	13	33.3
外部の研修会などに従業員を派遣	11	28.2
従業員用環境教育プログラムを構築	14	35.9
社内報などで環境意識を啓発	11	28.2
地域で環境学習や環境活動を実施	6	15.4
地域の環境活動に協力や支援	10	25.6
NPOなどの環境活動を支援	1	2.6
工場見学など学校の環境教育に協力	9	23.1
自社の環境活動情報を発信	12	30.8
環境マネジメントシステムを構築	10	25.6
その他	0	0.0
不明	2	5.1
合計	99	253.8

問9 問7で「積極的に」と回答した事業所におたずねします。従業員に対する環境学習にあたって関心のあるテーマは何ですか（3つまで選択）

選択肢	回答数	比率(%)
大気汚染・水質汚濁などの公害問題	9	23.1
化学物質	8	20.5
廃棄物・リサイクル	31	79.5
資源・エネルギー	14	35.9
自然環境	5	12.8
宇都宮市の環境問題全般	5	12.8
地球環境問題	6	15.4
環境マネジメント	11	28.2
消費者などの環境意識・環境行動	3	7.7
自社の事業活動と環境とのかかわり	7	17.9
国や自治体の環境規制や環境政策	5	12.8
その他	0	0.0
不明	4	10.3
合計	108	276.9

問10 以下の取組は、それぞれどの程度重要だと思いますか

問10(1) 学校教育で環境学習の授業を多く行う

選択肢	回答数	比率(%)
非常に重要	74	74.0
やや重要	24	24.0
どちらともいえない	1	1.0
重要でない	0	0.0
未記入	1	1.0
合計	100	100.0

問10(2) 家庭で環境に配慮した態度や習慣を身につける

選択肢	回答数	比率(%)
非常に重要	79	79.0
やや重要	20	20.0
どちらともいえない	0	0.0
重要でない	0	0.0
未記入	1	1.0
合計	100	100.0

問10(3) 地域で自主的な環境学習をさまざまな人々が行う

選択肢	回答数	比率(%)
非常に重要	27	27.0
やや重要	44	44.0
どちらともいえない	25	25.0
重要でない	2	2.0
未記入	2	2.0
合計	100	100.0

問10(4) 企業が従業員の環境学習に積極的に取り組む

選択肢	回答数	比率(%)
非常に重要	36	36.0
やや重要	43	43.0
どちらともいえない	18	18.0
重要でない	1	1.0
未記入	2	2.0
合計	100	100.0

問10(5) 行政が市民などの自主的な環境学習を支援する

選択肢	回答数	比率(%)
非常に重要	36	36.0
やや重要	44	44.0
どちらともいえない	16	16.0
重要でない	1	1.0
未記入	3	3.0
合計	100	100.0

問10(6) 行政が環境学習や普及啓発をもっと充実させる

選択肢	回答数	比率(%)
非常に重要	38	38.0
やや重要	44	44.0
どちらともいえない	14	14.0
重要でない	1	1.0
未記入	3	3.0
合計	100	100.0

策定体制

1. 庁内体制

○環境学習基本指針策定委員会

- ・構成 関係部次長，課長
- ・役割 環境学習基本指針原案の検討及び決定を行う。

○環境学習基本指針策定作業部会

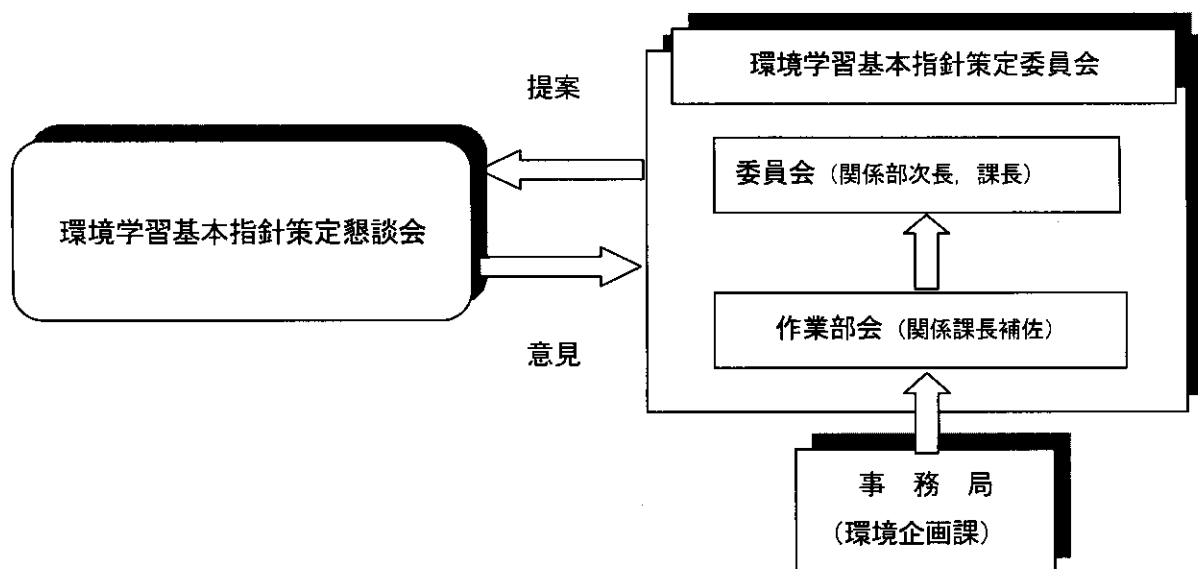
- ・構成 関係課長補佐
- ・役割 環境学習基本指針素案，原案の作成及び調整を行う。

2. 懇談会の設置

○環境学習基本指針策定懇談会

- ・構成 学識経験者，教育関係者，事業者，環境関連団体，市民団体
- ・役割 環境学習基本指針の策定に係る有識者の意見を聴取する。

【策定体制の関係図】



宇都宮市環境学習基本指針策定委員会設置要領

(設置)

第1条 本市における環境学習の総合化や体系化を図るとともに、環境学習推進のための基本方針や具体的な施策を示すことを目的とした宇都宮市環境学習基本指針の策定に際し、必要な事項を検討するため、宇都宮市環境学習基本指針策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所轄事務)

第2条 委員会の所轄事務は、次のとおりとする。

環境学習基本指針の原案の検討及び決定に関する事項

その他、環境学習基本指針の策定に関する必要な事項

(組織)

第3条 委員会は、委員長及び委員をもって組織する。

2 委員長は、環境部長をもって充てる。

3 委員は、別表第1に掲げる職にある者をもって充てる。

4 委員長は、委員会を総理する。

(会議)

第4条 委員会は、委員長が招集し、会議を主宰する。

2 委員長は、必要があると認めるときは、関係者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(作業部会)

第5条 次に掲げる事務を分掌させるため、委員会に作業部会を置く。

環境学習基本指針の素案、原案の作成及び調整に関する事項

その他、環境学習基本指針の策定に関する必要な事項

2 作業部会は、部会長、副部会長及び部会員をもって組織する。

3 部会長は、環境課長をもって充てる。

4 副部会長は、環境学習センター所長をもって充てる。

5 部会員は、別表第2に掲げる職にある者をもって充てる。

6 作業部会は、部会長が招集し、会議を主宰する。

7 部会長は、必要があると認めるときは、関係者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(庶務)

第6条 委員会の庶務は、環境部環境企画課において処理する。

(補則)

第7条 この要領に定めるもののほか、委員会の運営について必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この要領は、平成14年 8月 1日から施行する。

別表第1（第3条関係）

【委員会】

委員長	環境部長	
委員	市民生活部	次長
		自治振興課長
	保健福祉部	次長
		児童福祉課長
	環境部	次長
		環境保全課長
		資源循環推進課長
	商工部	次長
		商業観光課長
		工業課長
	農務部	次長
		農政課長
		農林振興課長
	都市開発部	次長
		公園緑地課長
	教育委員会事務局	教育次長
		学校教育課長
		生涯学習課長

別表第2（第5条関係）

【作業部会】

部会長	環境課長	
副部会長	環境学習センター所長	
部会員	市民生活部	自治振興課長補佐
		保健福祉部
	環境部	環境保全課長補佐
		資源循環推進課長補佐
	商工部	商業観光課長補佐
		工業課長補佐
	農務部	農政課長補佐
		農林振興課長補佐
	都市開発部	公園緑地課長補佐
	教育委員会事務局	学校教育課長補佐
		生涯学習課長補佐

宇都宮市環境学習基本指針策定懇談会設置要領

(設置)

第1条 本市における環境学習の総合化や体系化を図るとともに、環境学習推進のための基本方針や具体的な施策を示すことを目的とした宇都宮市環境学習基本指針の策定に際し、広く各層からの意見を指針に反映するため、宇都宮市環境学習基本指針策定懇談会（以下「懇談会」という。）を設置する。

(組織)

第2条 懇談会は委員10人以内で組織する。

2 委員は、次の各号に掲げる者のうちから、市長が委嘱する。

- (1) 学識経験を有する者
- (2) 教育関係者を代表する者
- (3) 事業者を代表する者
- (4) 環境関連団体を代表する者
- (5) 市民団体を代表する者

(任期)

第3条 懇談会の委員の任期は、委嘱の日から平成15年3月31日までとする。

(会長及び副会長)

第4条 懇談会に会長及び副会長を置き、委員の互選によって定める。

2 会長は、懇談会を代表し、会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 懇談会の会議は、会長が招集し、会長が議長となる。

2 懇談会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。

3 懇談会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(庶務)

第6条 懇談会の庶務は、環境部環境企画課において処理する。

(補則)

第7条 この要領に定めるもののほか、懇談会の運営について必要な事項は、会長が別に定める。

附 則

この要領は、平成14年 8月30日から施行する。

宇都宮市環境学習基本指針策定懇談会委員

平成15年3月現在 (敬称略)

氏名	役職等	区分	備考
陣内雄次	宇都宮大学教育学部助教授	学識経験者	会長
石原栄子	作新学院大学女子短期大学部助教授	学識経験者	
上野弘一	宇都宮市立平石北小学校長	教育関係者代表	
大越浩子	宇都宮市立若松原中学校長	教育関係者代表	
高橋啓子	商工会議所女性部常任理事	事業者代表	
三宅徹治	富士重工業(株)宇都宮製作所 総務部長	事業者代表	
青木章彦	環境教育ネットワークとちぎ代表	環境関連団体代表	
谷田部智久	自然教室センス・オブ・ワンダー 北関東支部 事務局長	環境関連団体代表	
神宮由美子	宇都宮市生活学校連絡協議会会長	市民団体代表	副会長

策 定 経 過

1. 事業経過

年 月	事 項	主な内容
平成 14 年 8 月	○第 1 回 宇都宮市環境学習基本指針策定委員会作業部 会	<ul style="list-style-type: none"> ・環境学習基本指針について ・環境学習に関する意識調査の実施について
	●第 1 回 宇都宮市環境学習基本指針策定委員会	
9 月	◎第 1 回 宇都宮市環境学習基本指針策定懇談会	<ul style="list-style-type: none"> ・環境学習の現状等に関する意見交換
9 月～11 月	□環境学習意識調査	<ul style="list-style-type: none"> ・市民アンケート (2,000 人) ・学校アンケート (95 校) ・事業者アンケート (200 社)
11 月	○第 2 回 宇都宮市環境学習基本指針策定委員会作業部 会	<ul style="list-style-type: none"> ・環境学習の現状と課題について ・環境学習の目標について
12 月	□市民団体ヒアリング	<ul style="list-style-type: none"> ・市民団体 (10 団体)
	○第 3 回 宇都宮市環境学習基本指針策定委員会作業部 会	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査結果の概要について ・環境学習基本指針の骨子について
	●第 2 回 宇都宮市環境学習基本指針策定委員会	
	◎第 2 回 宇都宮市環境学習基本指針策定懇談会	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査結果の概要について ・環境学習基本指針の骨子について
平成 15 年 2 月	○第 4 回 宇都宮市環境学習基本指針策定委員会作業部 会	<ul style="list-style-type: none"> ・環境学習推進施策について ・環境学習の総合的な推進について ・推進体制について
	●第 3 回 宇都宮市環境学習基本指針策定委員会	
	◎第 3 回 宇都宮市環境学習基本指針策定懇談会	<ul style="list-style-type: none"> ・環境学習推進施策について ・環境学習の総合的な推進について ・推進体制について
3 月	○第 5 回 宇都宮市環境学習基本指針策定委員会作業部 会	<ul style="list-style-type: none"> ・宇都宮市環境学習基本指針 (案) について
	◎第 4 回 宇都宮市環境学習基本指針策定委員会懇談会	
	●第 4 回 宇都宮市環境学習基本指針策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・宇都宮市環境学習基本指針 (案) について

2. 懇談会意見の概要

本指針の策定に当たっては、有識者の意見を聴取し、指針への反映を図るため、4回にわたり懇談会を開催しました。

懇談会では、委員のそれぞれの専門の立場から、主に次のような意見が寄せられました。

○指針全体

- ・この指針では「宇都宮モデル」を示したい。学習指針である以上、普遍的に網羅しなければならない項目も当然あるが、その中で宇都宮らしさ、宇都宮の環境の現状をきちっと把握したものとしていきたいと考えている。
- ・「環境」・「学習」ということでは、いろんな主体、いろんな立場の人たちが連携していくことが求められ、特に、活動テーマをもった市民グループのような「テーマ型グループ」と自治会などの「地縁型グループ」の連携が重要であるが、これがどこでもうまくいっていない。そういうものを考えていかなければ環境学習そのものも広がっていかない。
- ・宇都宮市という県庁所在都市としての責任も指摘したい。宇都宮市で働いている方は、ここ（宇都宮市）に住んでいなくても、年間かなりの時間を過ごしていることになる。こういう人たちは宇都宮で働くことで環境への意識を高め、自分の住んでいる地域に帰ったときに地域のリーダーとして活躍できるようになる。このような広域的責任についても宇都宮市の環境学習指針の中に盛り込めれば、と考えている。
- ・幼児期からの学習体系といったものを考えるときに重要なのは、子どもたちに何を教えるかという学習体系ではなくて、子どもをとりまく大人（親・先生・地域の人など）が何を行動するかという視点である。その行動のなかに子どもが一緒に参加することによって、子どもの体・心に沁みしていく体験活動を学習指針に盛り込んでいければ、と考えている。
- ・学校が完全五日制になったことにより、かえって子どもたちが忙しくなってしまう、（私たち教師も含めて）ゆとり感がなくなっている。本来は土日の休みには地域の環境にふれあうのが理想であるが、そうはいかないのが現状である。小学生のうちに自然とふれあう経験・体験をし、豊かな感受性を育むことは大切であり、その意味でも、環境教育を重視していかなければならないと考えている。

○第1章 環境学習基本指針策定の意義

- ・「なぜ環境学習が必要か？」という表現が欲しい気がする。目標があり、その目標を克服・達成するための手段として環境学習が存在するのだ、という構成にしてみてもどうか？
- ・「持続可能性」という言葉については是非謳っていただきたい。自分たちの生活、暮らし、すべてのものにおける持続可能性をどのように実現していくのか、ということをも理念として触れていただきたい。
- ・「各主体」という言葉が何をさしているのか明確にすべきである。

○第2章 環境学習の現状と課題

- ・市の事業で数量的なデータを示すことも必要ではあるが、その事業の内容や質を把握するため、連続的なもの（しっかりプログラムを組んで展開されるもの）と単発のもの（イベント的なもの）を分けて、分析する必要がある。
- ・各主体のアンケート調査の結果について述べられているが、各主体の回答分析だけでなく、全体を通した回答分析、考察も必要である。

○第3章 環境学習の目標と主体別の役割

- ・子どもに対する教育もちろん大切であるが、今、一番しなくてはならないのは大人に対する教育である。大人がしっかりすれば、おのずと子どももしっかりするはず。その観点をもう少し明確する必要がある。

- ・我が校の生徒は1年間毎日、大人の捨てたタバコの吸殻を掃除している。これでは、大人と子どもが逆である。やはり、大人の意識改革が必要である。
- ・家庭における環境学習について、「実際に誰がやるのか？」という部分をもっと整理する必要がある。
- ・教育現場では、既に多くの取組がされている。指針では、新たな取組というよりも、現に取り組んでいることが環境学習につながるのだという整理ができれば、現場でも混乱なく活用できる。
- ・宇都宮市の環境の特徴とも言える「農業」について、「自然」という言葉とひとくくりで片付けてしまっているのであろうか。農業体験という具体的な表現が必要である。
- ・「事業者」の役割についてであるが、事業者はやはり業績を第一に考えるものである。市内の事業者の大多数を占める零細企業へもPRできるような表現をお願いしたい。
- ・行政の支援で、「資金の提供」がぬけている。支援の側面として、資金の提供をするということはとても重要なポイントであり、盛り込む必要がある。

○第4章 環境学習推進施策

- ・「ごみゼロの日」、「環境の日」は、未だに市民の認識が低いことから、より一層啓発していくべきである。
- ・リーダーの育成は必要であるが、もう少し踏み込んで、リーダーのボトムアップ、レベルアップということも視野に入れるべきである。
- ・指導者・リーダー育成プログラム等に参加するのは、ほんの一部の市民であり、実際は参加しないの方が圧倒的多数である。そういう人への教育が何よりも大切である。
- ・環境学習の場と機会の充実につながる取組として、企業における実践活動を紹介してみてもどうか。
- ・各主体の環境学習に関する実践活動への支援策として、活動事例の発表の場を提供することも重要であるが、同時に「誉める」ということも効果的である。表彰制度などを盛り込んでどうか。

○第5章 環境学習の総合的な推進

- ・環境学習センターの活用は行政主導で行うべきではないと思っている。各主体には、行政サイドでは理解できない「立場」や「限界」というものがある。
- ・「(仮称) うつのみや環境Uネット」については、国内で参考にさせていただきたい先進事例もあるが、その運営に関しては多額の資金がかかっている、ということもあわせてお知らせしておきたい。システムの開設に当たっては、お金をかけないで継続して情報提供できるしくみ、言い換えれば、一般市民を巻き込んで「自己増殖」できるようなシステムにすることが肝要だと思われる。

○第6章 推進体制

- ・計画は作っただけで終わりではない。環境学習指針を策定した後、どのように実効性を担保していくのか。きちっとした工程管理を「どういう基準で」「誰が」やっていくかを盛り込む必要がある。
- ・環境学習推進のイメージ図については、環境学習を推進する上での理想的な体系図であるが、これを実現するためには時系列的にどのようなステップを踏み、どのようなことをやっていけばいいのかを読み手にイメージさせる文章を、指針中というのではなく、参考資料の中にも掲載することができれば、とても理解しやすいものになるのではないだろうか。

○その他

- ・指針の策定はゴールではなくスタートである。策定するだけでなく、出席の委員の皆さんを始めとする「キーとなる人材・団体」に積極的に働きかけを行ない、いかにして「実行」していけるかが課題となる。そのための協力も喜んでさせていただきたいと思っている。